

琉球王朝首都の誇りを
受け継ぐ沖縄県の心臓部

那覇市

- 面積 —— 39.04km²
- 人口 —— 316,482人(平成19年10月末現在)
- 市花 —— ブーゲンビリア
- 市木 —— フクギ
- 市花木 —— ホウオウボク

交易盛んな港町の歴史を持つ「政治・経済・文化の中心地」

沖縄本島南部の西海岸沿いに位置する那覇市は、首里の高台から東シナ



東シナ海に面した平野部

海に面した緩やかな傾斜の平野部を背景に、琉球王朝時代より東アジア諸国との交易で栄えた王朝首都の港町。先の大戦で焼け野原になったにもかかわらず、戦後たくましく復興しました。県庁が所在する県都として、また那覇空港や那覇港を擁する沖縄の玄関口として、政治・経済・文化の中心地として発展を続けています。

第三次産業を中心に観光にも力を注ぐ

主な産業はサービス業や飲食業、卸小売業、情報通信業などの第三次産業。また、2003年に空港と首里を結ぶ沖縄都市モノレールが開通し、市内の観光地等との交通アクセスがより便利になりました。王朝時代の伝統文化を受け継ぐ首里には、びんがたや首里織、泡盛の酒造所なども残っています。



首里城正殿

他に類を見ない珍しい祭りや観光名所が点在



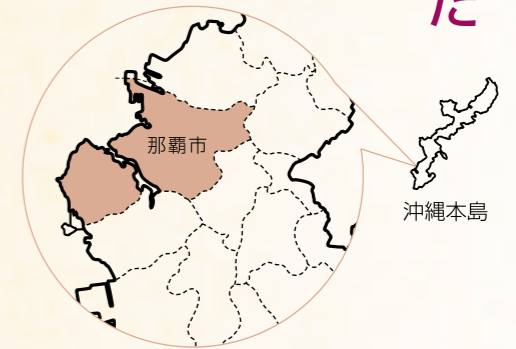
那覇大綱挽

那覇市には、世界遺産に登録された首里城をはじめ、庶民の台所としてにぎわう牧志公設市場、琉球王府御用窯が残る焼き物のまち「壺屋」など、個性豊かな名所や観光スポットが点在しています。また、全長186mの大綱でギ

ネスブックに認定された世界一の大綱引きが行われる「那覇まつり」、中国から伝わったとされる爬竜船が競そうする「那覇ハーリー」など、琉球の歴史が垣間見える多彩なイベントもめじろ押しです。



元旦の夜明け前から若水をくみはじめる土族の少年たち



沖縄本島

「いー正月や」

そーくわち

那覇市首里のわらべうた

民謡とわらべうたで巡る
監修 ● 宮城葉子
イラスト ● 本原健至

県内各地に残る民謡やわらべうたは、懐かしい風景や当時の暮らしぶりを伝えてくれます。
うちな〜の唄が誘う地域の旅へ、まじゅん行かな(さあ出かけまじょう)!

正月の朝の清々しさが伝わってくるようなわらべうた

沖縄の正月は、朝日が昇る前の若水くみで始まりを告げます。ウビーと呼ばれる「若水」を村の拝所にある井戸「ウプガー」にくみに行くのは、男の子の役目。わらべうたに出てくる「殿内(トゥンチ)」はさむらいのお屋敷のこと。歌詞からもこのわらべうたが首里の風景を唄ったものであることがわかります。

男の子たちは「いー正月や」を唄いながら、隣近所に若水を配り、そのお駄賃にお年玉をもらうのが楽しみでした。各家では若水を茶碗にもらい受けて仏壇やかまどのヒヌカン(火の神)に供え、その後はお茶を沸かして飲みました。若水には若返りの効果があるといわれ、一年の厄をはらって新しい年を健康に暮らすという意味が込められています。

若水の由来には民話も残っています。神様から「これを浴びて若返りなさい」と若水をもらったチンチナー(ひばり)が、好物の粟やトーキビ(トウモロコシ)を食べることに夢中になり、ハブに若水を横取りされてしまいました。チンチナーは神様の言いつけを守らなかつたためしから、足を強く縛られて足が小さくなりました。また、チンチナーの代わりに若水を浴びたハブは若返りができるよつになり、そのときから脱皮をするようになったといわれています。

「いー正月や」

いー正月や

朝起きそーている

若水うさぎやびら

あまぬ殿内

くまぬ殿内

若水うさぎやびら

(標準語訳)

いい正月です
朝早起きをして
若水を差しあげましょう
あのお屋敷にも
このお屋敷にも
若水を差しあげましょう

※わらべうた調査・編集 ● 宮城葉子

※民話参考:『むかしばなし』沖縄市教育委員会、一九九四年

